



2009～2010年度  
国際ロータリーのテーマ

ロータリーの未来はあなたの手の中に

事務局・例会場 鹿兒島東急イン  
〒890-0053 鹿兒島市中央町5-1-9F  
TEL 090-5295-2736  
FAX 099-251-5290  
例会日 毎週木曜日 12:30～13:30

会 長 松田 泉  
会長エレクト 前田 正幸  
幹 事 井川 良仁  
編 集 会報・広報委員会

Eメール kswrc@po5.synapse.ne.jp ホームページ <http://www.ri2730.org/southern/>

Vol. 14-26

第600回例会 平成22年1月14日(木) プログラム「研修・選考委員会担当」

前回第599回例会[1月7日(木)]の報告 於：サンロイヤルホテル

鹿兒島市内RC新春合同例会 担当世話クラブ：鹿兒島北RC

【会長挨拶】 鹿兒島北RC会長 上田耕平

皆様、明けましておめでとうございます。皆様とともに、平成22年の新春を迎えることができましたことを心よりお慶び申し上げます。本日、ご来賓の鹿兒島市長森博幸様には、公務ご多忙の中、ご臨席戴き有難うございます。また、RI2730地区ガバナー秦喜八郎様並びに地区幹事の鳥山浩様に於かれましては、遠路はるばる宮崎よりご出席戴き有難うございます。そして鹿兒島市内ロータリークラブ会員の多数の出席のもと、新春合同例会を盛大に開催できます事を心より御礼申し上げます。市内ロータリークラブ会員を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

(挨拶の途中でありますが、ここで、本日のゲストの方々を改めてご紹介させていただきます。

鹿兒島市長森博幸様、 RI2730地区ガバナー秦喜八郎様、同じくRI2730地区幹事：鳥山浩様)

さて、21世紀に入り、はや10年目に入ります。激動と科学の大進歩から安泰化を思わせるように進んだ20世紀を終えてから10年にもなりますが、世界的には今なお争いと貧困が絶えません。一昨年の金融危機以来、不況の波が収まらない昨年1年間であり、政権も自民党から民主党へと変わりましたが、明るさも見えず、問題山積みと云ったところでしょうか。さて、新年に於きましては・・・と言いたいところですが、私は皆様に比べて政治や経済に非常に疎いので、この話は止めにしておきますが、新しい年には僅かでも明るくなることを期待したいものですね。

私たちロータリアンにとっては、2009-10年度のちょうど折り返しの時に当たります。今年度のRIテーマ「ロータリーの未来は あなたの手の中に」並びに今年度強調事項：会員増強・維持と水・保険飢餓・識字率向上、並びに秦喜八郎ガバナーの地区運営方針にも掲げられている「ロータリアンの誇りの復活」を目指すために、皆様とともに一緒に頑張ってくださいと思います。さらに、7月からの新年度では、鹿兒島RCの伊藤学而会員が2730地区ガバナーになられますので、選出分区として、さらなるご支援ご協力を宜しくお願い致します。

最後に、私たち鹿兒島市内のRC各クラブがその個性を生かしつつ、さらなるご発展を遂げられること並びに新しい年が皆様にとりまして、素晴らしい1年、そして充実した1年となりますようご祈念いたしまして、市内10クラブ合同例会の開会の挨拶と致します。ありがとうございました。



<鹿兒島市内RC新春合同例会 出席報告>  
会員数 452 出席数 314 出席率 69.47%

《次回(第601回)例会のお知らせ》

日 時：H22年1月21日(木)

12:30～13:30

場 所：東急イン2F

プログラム：クラブ協議会(上期報告・下期計画)

出席報告	会員数	出席	出席率%
第599回1月7日(木)	51	41	80.39
第599回12月17日(木)訂正	53	45	84.91

鹿兒島サザンウインドロータリークラブ

2009～2010年度 クラブテーマ「善いことを思い 実行しよう!」

皆さま、新年あけましておめでとうございます。鹿児島市長の森でございます。今日は、市内のロータリークラブの皆様が一堂に会され、新しい年を共に祝う新春の合同例会が、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、皆様方には、それぞれのお立場でご活躍されるとともに、奉仕の精神に基づき、様々な社会貢献活動を積極的に展開されておられますことに、深く敬意を表します。また、市政の各面にわたりまして、ご理解とご協力を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、平成21年の漢字として「新」が選ばれたようにさまざまな新しいことが起こった一年であったと思っています。1月にはアメリカでもオバマ新大統領が就任したほか、国内でも新しい政治が期待され、8月の衆議院総選挙で民主党が第1党となり新政権が誕生しました。事業仕分けや新しい予算編成のやり方など国政も大きく変わってまいりました。更に、エコポイントやエコカー減税という新しい制度も開始された一年でもありました。司法の面では、裁判員制度が始まり、国民が裁判に直接参加するようになりました。また、スポーツ界では、メジャーリーグでイチロー選手が前人未達の9年連続200本安打の新記録を達成したほか、世界陸上でポルト選手が世界新記録を更新するなど、新たな快挙が見られた年でもありました。このような様々な「新しいこと」に期待し、希望を抱いた2009年として選ばれた漢字が「新」だったのは、記憶に新しいところでございます。

一方、昨年の世界的な経済・金融危機が、わが国の経済や雇用情勢への深刻な打撃を与え、本市経済にも深く影を落としており、みなさんも大変ご苦勞をされていることと思います。本市としても、緊急経済・雇用対策本部を設置し、国の政策と呼応して、総額約300億円の対策を講じてまいりました。昨年末には、国の予算も固まりましたので、厳しい財政状況ではありますが、市政の最重要課題のひとつとしてしっかり取り組んでまいりたいと思います。また、新型インフルエンザが流行し、学校や職場など市民生活に大きな影響がありました。本市では、新型インフルエンザ危機対策本部の設置、発熱相談センターの開設、市立病院への発熱外来の設置に加え、今月からワクチンの集団接種を実施するなど、感染の予防や拡大防止に必要な対策を進めたところでございます。そして、私にとって昨年は、2期目の実質的なスタートとなる年であり、「人とみどりが輝くまち・かごしま」をスローガンとした多くの施策に取り組んでまいりました。お陰をもちまして、内外とも大変厳しい環境の中で、市政は順調に進展していると思っております。

さて、年が明けまして、平成22年は鹿児島市にとりまして、これまでも増して、非常に大切な年であると思っております。来年の春にはいよいよ新幹線が全線開業いたします。全線がつながりますと、福岡まで1時間20分と、50分短縮、また大阪までは約4時間と、西日本が日帰り圏内となり、人・モノ・情報の交流が活発化し、交流人口の増加による経済の活性

化など、多大な効果が期待されます。一方では、都市と都市との競争が広域化したり、激化することも予想されます。このため、南九州の拠点である鹿児島市をさらに魅力あるまちにしていかなければなりません。鹿児島ならではの地域資源や特性を最大限に生かして、都市としての総合力をさらに高めていくことが大変重要であると考えています。そのため、重点的に取り組んでいるのが、「魅力と活力あふれる都市の創造」でございます。特に力を入れているのが、新幹線の発着駅であります、陸の玄関である鹿児島中央駅から海の玄関である鹿児島本港までの中心市街地の活性化でございます。昨年の皆既日食では、本市を起点に多くの観光客が離島へ向かうなど、本市が南西諸島の重要な窓口であることを再認識させてくれました。中央駅から海の玄関までは、鹿児島の顔として、魅力の発信元であり、この一帯の活性化は極めて重要であります。このため、まちなかを多くの人が滞在し、楽しんでいただけるような回遊性のある空間づくりに取り組んでいます。中央駅からすぐ近くの甲突川沿岸、加治屋町は、南洲翁や大久保公をはじめ、多くの偉人を輩出した地であります。この一帯を歴史ロード“維新ふるさと道”として、武家門風のゲートや武家屋敷などを整備し、幕末の薩摩を体感できるようにいたしました。また、維新ふるさと館については、薩摩藩英国留学生の新ドラマ作成や、篤姫コーナーの設置など、リニューアルしました。なお、昨年の入場者は篤姫放映の一昨年を上回り、過去最高を記録しております。

一方、対岸のナポリ通り側の緑地には、観光交流センターを核とした憩いのスポットの整備を進めています。加治屋町と天文館をつなぐ空間として、天文館公園近くの清滝川通りには、水に親しみ、散策を楽しむ空間を整備するほか、自転車でも回遊できるようパス通りなどへの自転車専用道の整備も推進しています。また、天文館の魅力づくりとして、中心市街地活性化計画に基づく、商店街のショッピングモール化のほか、大島紬アンテナショップとして、本場大島紬商品の紹介展示や試着体験ができる「織姫館」、商店街イベントや各店舗の情報、観光情報などの提供や、ベビーカーの貸し出しを行う「たまちサロン」をオープンさせました。このほか、今年4月開業予定の商業施設「マルヤガーデンズ」整備や、来年5月開業予定の「We Love 天文館協議会」を中心としたシネコン建設への支援にも取り組んでいます。また、この中心市街地に潤いを与えているのが、現在進めている路面電車の軌道敷部分の芝生化でございます。この本格的な芝生化は全国初の取組みであり、市民をはじめ観光客の方々にも大変好評をいただくなど、本市のシンボルになっております。平成24年度までに、残りの新屋敷から郡元、中州通から涙橋までを緑化いたします。完了しますと、テンパークの芝生広場10個分にあたる、約3ヘクタールの緑地空間が、まちなかに創出される予定でございます。このほか、ソフト事業として、ボランティアガイドと史跡を歩いてめぐる、「鹿児島ぶらりまち歩き」を実施しており、今年は薩摩と坂本竜馬との関わりを紹介するコースを設定する予定でございます。

また、新たな取組として、「美味のまち鹿児島」づくりと題し、黒牛、黒豚、鳥刺し、きびなご、さつま揚げ、焼酎、かるかん、しろくまなど、鹿児島ならではの「食」をテーマに、飲食店や商店街、宿泊施設など、民間の方々と連携して、ワークショップ、イベントの開催を通じて、県内外への情報発信を行うなど、新たな魅力づくりも行っています。このほか、豊かな農林水産物や自然を活用した魅力づくりとして、平成16年の合併により加わった、桜島小みかんや郡山の棚田などを活かした農業体験などを行うグリーンツーリズムに取り組むほか、農業体験ができ、都市部住民と農業・農村の「交流と体験の場」となる観光農業公園を、ごみや廃棄物を出さない資源循環型の施設として平成24年度を目途に喜入地域に整備しています。さらには、鹿児島の農水産物などの魅力を私、自らがPRする市長トップセールスなどのキャンペーンを、関東・関西・中国・北部九州のほか、台北（タイペイ）、ソウル、香港、上海など、アジア地域でも実施してきており、今後も引き続き取り組んでいきます。このほか、全線開業にあわせたPRの一環として、全国都市緑化かごしまフェアの開催準備を進めています。平成23年3月から5月までの66日間、吉野公園をメイン会場、ふれあいスポーツランドをサブ会場として、県下全域で開催し、80万人以上の来場を目標としています。また、ヨーロッパを中心に長い歴史と人気がある室内自転車競技の世界大会も、平成23年の秋頃、本市で開催する予定でございます。

ところで、昨年から噴火活動が活発化している桜島ですが、昨年10月には本市で「火山砂防フォーラム」が開催され、全国から約700人の関係者が集いました。私は、この桜島と共生するまちを目指して、また、世界に発信できる活火山として、桜島を生かす施策を進めています。溶岩なぎさ公園に、屋外では日本最大級、約100mの源泉かけ流しの足湯を整備したほか、湯之平展望所のリニューアル、音楽などのイベント会場に活用できる「赤水展望広場」の整備、桜島フェリーへの電気推進船の導入にも取り組んでいます。さらには、既存の観光資源の魅力を高めるため、平川動物公園のリニューアル、国の名勝指定を受けた玉里邸庭園の修復整備、「九州・山口の近代化産業遺産群」である異人館の整備、かごしま近代文学館・メルヘン館のリニューアルなども進めています。また、九州の骨格と言うべき熊本・福岡市と、観光など各分野で連携し、九州全体の一体的な発展に努めております。

さて、終わりに際し、少し今年の干支に、ちなんだお話をしたいと思います。寅年の中でも今年は「庚寅」

にあたり、「庚」が「あらたまる」という意義で、自ら新しいものに改まっていくとする状態を、そして「寅」は「うごく」という意味の「寅」が元の字で、草木が春の初めに発生する状態を表しているそうで、この年は、新たな動きが顕在化してくる年回りと、言われているようです。実際、60年前、前回の「庚寅」の年、昭和25年を振り返ってみますと、綿製品などの価格統制撤廃がなされ、日本の戦後復興が本格化した時代であり、本市においては、伊敷村と東桜島が編入され戦後の本市の枠組みが構築された年でした。

更にひと廻り前、120年前の明治23年は、前年の大日本帝国憲法公布を受け、第一回帝国議会が召集され、明治国家が名実ともにスタートした年であり、本市においては、前年の市制施行を受け、城山公園の管理が県から市に移管されるなど、市政が実質的にスタートした年でございます。こうしてみると、新幹線開業の直前の年である本年は、本市の将来を左右する様々な事象が、顕在化するのではないかと考えておりますが、虎のように、勇猛果敢、積極果敢に、気概と情熱を持って取り組み、「虎に翼」のことわざのように、新幹線が本市にとっての翼となるよう、魅力あるまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

本日は、時間の関係もあり、喫緊の課題である全線開業に向けたまちづくりに絞って、お話をさせていただきました。ご案内のとおり、先行き不透明な国内経済、人口減少や少子高齢化の進行、さらには国・地方を通じた厳しい財政状況など、我が国は多くの課題に直面しております。そのような中ではございますが、大河ドラマ「篤姫」以来、「坂の上の雲」、「竜馬伝」、そしてまた、映画放映では、榎木孝明さん主演の「半次郎」、横断遠泳を描いた「チェスト！」に続き、鹿児島3部作の第2弾として、火山めぐりヨットレースを舞台とした「海の金魚」など、鹿児島が全国に注目される機会がここ数年続いています。本市としましてはこの追い風を逃さず、しっかり対応してまいりたいと考えております。民主党は「地域主権」をマニフェストに掲げ、「明治以来続いた中央集権体制を抜本的に改める。」としております。これから本格的な地方の時代を迎えますので、私は鹿児島の魅力を一層高め、活性化が図られるよう、市民の皆様の笑顔がひろがる、未来に輝く「元気都市・かごしま」を創造するために、全力を傾けてまいりたいと新年にあたって決意を新たにしております。

新しい年が皆様にとりましてすばらしい年でありまますよう、心からお祈り申し上げます。本日はありがとうございました。

ペンリレー⑦

会員名 濱田一郎

本年度、職業奉仕委員長の濱田です。委員会から少し離れて「三方良し」は、高いハードルと感じながら過ごした正月のお話を……。鹿児島中央駅前の電線に小鳥（たぶん、冬場に南下、平地に集まるムクドリ）の団体様）がびっしりと並び大音量でさえずっています。時刻は、夕方6時過ぎだったでしょうか。冬の寒空に小雨も降り始めるというのにこのまま夜をすごすのかもしれない。「どうしたんだろうね。」と言うと、近辺でパート勤務している娘が「いっつもだよ。夜通しライトアップしてるから行く所がないんだろうね。かわいそうだよ。」と言います。近辺に働いている人の間では、以前から話題になっているようでした。あの樹木のライトアップを不気味と思っても美しいと思ったことのない私。少なくとも娘の周辺では、不評なようです（感性の低い私たちをお許しください）。私たちの周りには、市民権を得た「当たり前」がたくさんありますが、疑問を持っている人もけっこういるんだろうなと思った夜でした。次は、サザンの家族会ピクニックの景品「LEDライト付キャップ」を預かりっぱなしの藤崎さんをお願いします。